

## 国立公園とエコツーリズム—台湾陽明山国立公園を事例に

畠中昌教（久留米大学）

姚雯潔（久留米大学・院）

観光活動が進展する現代において、持続可能な観光を開発するには、観光による環境への影響を再検討する必要がある。例えば、国立公園の設立目的は環境教育、自然保護、そして一般への公開であり、エコツーリズムとも密接な関係がある。そこで本発表では、台湾台北市北部に位置する陽明山国立公園（正式名称は陽明山国家公園）における自然保護とエコツーリズムの現状を報告する。

本発表は、2019年8月に陽明山国立公園において行った現地調査の成果によるものである。現地調査においては、同公園の展示などの観察、関係者への聞き取り調査、資料の収集を行った。現地調査結果をもとに、同公園とエコツーリズムの定義や歴史を整理し、自然保護制度のゾーニング等を検討した。

その結果、同公園のゾーニングは5種類に分かれていて特別地域の比率が大きいこと、エコツーリズムに関しては環境教育や自然保護を中心に実施されており、行政と地域住民の協力が進められていることなどが明らかになった。